

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第3回佐渡市デジタル化推進検討懇談会
開催日時	令和6年1月25日 (木) 10:00~12:00
場所	佐渡市役所2階 大会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 座長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) デジタル活用計画 (案) について 2) 令和6年度事業 (案) について 3) その他 4 副座長あいさつ 5 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	«デジタル化推進検討懇談委員» (8名) «市役所» (4名) 佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 中川 裕 総務課デジタル政策室長 椎 俊介 総務課デジタル政策室デジタル推進係調査員 桃原 里沙 総務課デジタル政策室デジタル推進係主事 長谷川 博也
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	なし

会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
座長	<p>1 開会 2 座長あいさつ</p> <p>本日は悪天候の中お集りいただき感謝申し上げます。 A委員におかれましてはリモートでのご参加となるが、こうして佐渡市役所においてリモート会議ができることになろうとは、コロナ禍を介してのデジタル改革の賜物と思っている。 元旦から非常にざわついた1年である。 私たちが考えるDXにおいても、「防災」は非常に大切にしているテーマの1つであるが、「構想」としていることが、実際に大きな災害が発生した際にどのように活かされるのか、どのような課題があるのかなど、他人事とならないよう考えていく必要があると感じている。 本日は「デジタル活用計画」に何を組み込んでいくのかということも大切であるが、計画が策定された後にしっかりと走っていくためにどのような仕組みを作っていくのかということ、少し俯瞰的な視点から見ていくことも大切なことと思っている。 本日はそのような議題が中心となるが、皆さまの活発なご議論をお願いします。</p>
椎室長	<p>3 議事 1) デジタル活用計画（案）について （アジェンダP.4～7、「デジタル活用計画（素案）」について説明）</p>
副座長	<p>計画の実行にあたって「PDCA」という言葉をよく使うが、どう実行するのか。 「Do」と「Action」の違いは何か。</p>
椎室長	<p>「Check」のフェーズでパブリックコメントを実施した時に、そもそも論の話が挙がってきた時のことも想定して、「Action」の範囲をどこまで想定しているのか。 成果指標は「総合計画」に施策ごとに設定されているため、そこへ向かうための行動指標を設定しなければならないと思っているが、その指標のとおりに行っているのか、また、行動指標のとおり実行しても、それがしっかりと成果指標に結びついていくのかといった観点からの微調整が必要と考えている。</p>
副座長	<p>「A」は「Adjust」と考える方法も昨今は一般的になりつつある。 「佐渡市の『PDCA』の『A』は『Adjust』である」と明確にし、少なくとも向こう3年間は大きな方向性は変えないといった定義も必要だと思う。</p>
椎室長 副座長	<p>計画の進め方についてしっかりと説明を記載することと理解したい。 「微調整」なのか大幅な「修正」なのかはまったく違う話と思うので、整理しておくべきである。</p>
座長	<p>そこに付随して、「Check」は誰が担うべきなのかも議論したい。 デジタル政策において、「Check」を行うスパンが1年でよいのかという点も疑問である。</p>
副座長	<p>どのような頻度でどのような「Check」を行っていけば、元々の計画がよい形でアップデートされて「Adjust」になっていくのかということは考えた方がよい。 制度設計・計画設計であるので、そこも含めてもう少し言語化・マニュアル化しておいた方が、色々な方々からおかしな期待や計画修正を求められた際にも対応し易いと考え。</p>
座長 椎室長	<p>「構想」には、「Check」を担うのが誰になるのか書かれているのか。 「構想」には「推進体制」が書かれており、全体の進捗を担うのがデジタル政策室で</p>

<p>副座長 椎室長</p>	<p>あり、そこへ助言いただくのが懇談会という建付けとなっている。 懇談会は意見を言うが、「Check」を担う機関ではないという理解でよいか。 「Check」をどう定義するのかにもよると思う。 現在の懇談会の開催要綱では、「計画の策定、進捗、見直しに対して助言をいただく」ということとなっているが、どこまで踏み込んでいただくかの整理が必要と思っている。</p>
<p>副座長</p>	<p>そこを含めて私たちがどこまで役割を果たせるのかについて、もう少し定義化していただいた方がよいのかなと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>私自身も現在、別の計画や戦略の策定に携わっているが、5年前に立てたKPIが忘れられており、立てた目標が全く機能していないというようなことが散見される。 特に肝になるような政策については外部アドバイザーのような伴奏者のサポートが必要だと思う。 現在、デジタル政策分野において外部アドバイザーのような制度はあるのか。</p>
<p>椎室長 座長</p>	<p>ない。</p>
<p>副座長</p>	<p>そうなった時に、この懇談会はどのような役割を果たすのか。 懇談会メンバーも、せっかく集まって意見を言うだけでなく、役割があって佐渡市の役に立てるとよいと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>もう少し「Check」の定義について一緒に考えられるとよいと思う。 お示した「計画（案）」は素案であるので、ご指摘の部分については残り2回の懇談会の中でも相談させていただきながらしっかりと定義していきたい。 ちなみに、行政改革部門では諮問機関に対して重点取組項目を評価していただくような仕組みもあったが、その仕組みがしっかりと機能していたのかという疑問もあり、この問題は非常に難しい問題であると認識している。</p>
<p>座長</p>	<p>引き続き相談させていただきたい。 「計画（案）」については練り切れていないのが現状であり、まとまり次第委員の皆さまへお配りし、議論できる材料をお渡ししたうえで内容の議論に踏み込んでいきたいと考えているが、計画を策定しても、「策定して終わり」ということが多々あり、そうならないためにこの懇談会が果たす役割や計画の進め方について、計画書の中にどのように記述していくのかについてもしっかりと議論できたらと思う。</p>
<p>副座長</p>	<p>KPIを立てる時に、そもそもできないKPIを立ててもどうしようもない。 「要否」と現実的な「可否」は混同してはいけない。 まずはできる範囲を抽出したうえでリソースの検討をする。 優先度をつけて現実的にできることをKPIにすべきである。</p>
<p>座長</p>	<p>一方で、「要否」がおろそかになっているケースも多いように見受けられる。 KPIを作ることが目的となっている。 大きな目標に接続できるKPIを立てていくことが大切と思う。</p>
<p>副座長</p>	<p>課単位または部単位で優先すべき施策について、要否の観点でリソースを分配することが大事である。 その部分の説明ができればKPIの説明にもなるはずである。</p>
<p>座長 副座長</p>	<p>KPIをマネジメントできる仕組みがない。 できれば、「可否の話」と「要否の話」を2段階に分けてKPIを作っていただくとよいのかなと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>この課題については今すぐに結論が出るものではないと思っている。 計画書そのものについては「計画（案）」として策定後にパブリックコメントを実施するという流れとなるが、計画の詳細については、テーマごとに取組項目が書かれているが、これを誰が読むのか。 誰に対して書いているのかという点も気になるところである。 例えば市民目線で考えた時、「こういう計画を作りましたけどどうですか？」と問わ</p>

B委員	<p>れても判断に苦しむ部分があると思う。</p> <p>せっかく計画が策定段階であるので、委員の皆さまの視点からご意見をいただければと思う。</p> <p>「市公式LINE」を周囲に広めてみたが、主婦に口コミというアナログ手法である。足になる人が必要と感じている。</p> <p>子どもが楽しそうに勉強しておらず、その理由を知ろうと思うと学校に入ってアナログで情報収集しないと分からない。</p> <p>しかし、目標が決まっていなくて自分たちも動けない。</p> <p>よって、計画は計画としてちゃんと作っていただきたい。</p> <p>その目標を目指して私たちは動くしかないと考えている。</p>
座長	<p>1つ1つのデジタル技術の活用という話だけではなく、市民も含めて一体となってDXを進める風土や土壌を作るために、「こんなことを進める」というようなことを書いてもよいかもしれない。</p>
C委員	<p>C委員はいかがか。</p> <p>具体的なシーンについて。</p> <p>震災で集落の水が濁るという状況が発生したが電話で情報収集するしかなく、知らない方に電話するのは抵抗があるため、LINEを活用できたらよいと思った。</p> <p>佐渡市からは「（濁りは）解消された」と発表があっても、自分の集落ではまだ濁っていたため、ローカルな情報は相互にやり取りができるとよいと感じた。</p> <p>高齢者層は現状に満足してしまっている節もあるが、災害など行政のリソース不足の際には市民も協力できるような、そんな仕組みがあればよいと感じた。</p>
座長	<p>いくら仕組みが構築されていたとしても、災害時にしか使わない仕組みでは困る訳である。</p> <p>日常的に使用しているものでなければ、いざという時にすぐに思いつかないものである。</p> <p>日常に浸透されている技術やツールを活用していく必要があると思う。</p>
D委員	<p>D委員はいかがか。</p> <p>KPIについては、やりやすい数字を立てることは理解できるがその根拠や位置づけについて説明しながら、ゴールに向かって段階的なKPIを見せていくとよいのではないかと。</p> <p>「Check」については、外部が実施できる体制を構築すべきと考える。</p> <p>KPIの設定についても、「内部でやりやすい数字を並べているのでは」といった疑念が生じるようであれば、外部のコメントが市民の目にも届くという形であればKPIの適正性のアピールにもなると思う。</p>
座長 椎室長	<p>事務局からのコメントはあるか。</p> <p>B委員のご意見について。</p> <p>「総合計画」には「市民・団体等」「事業者等」「行政」ごとの役割分担が書かれている。</p> <p>そのような形で「市民の役割」を「計画」に記載し、その部分をパブリックコメントで見ていただく形もよいのかなと思った。</p> <p>例えば、「周囲の10人に『市公式LINE』のお友達登録を勧める」などの取組があってもよいのではと感じた。</p> <p>C委員の「相互のやり取り」については、デジタル分野のみならず全庁的に課題として捉えている。</p> <p>市民ニーズの把握といった観点では各課ともSNSの情報を活用したりしているが、やはり相互のやり取りができるようなツールの活用については要望も多く、これから考えなければならない部分である。</p> <p>日常に浸透されている技術やツールを活用するという観点では、現在、「市公式LINE</p>

<p>座長</p>	<p>」から道路の破損通報や公園の破損通報などができるようになってきているが、災害時にはあまり分野を細かく設定せず、「災害関連通報」といった大きくくりでの通報ができるような仕組みがあってもよいと感じた。</p> <p>D委員からは3つほどご意見をいただいたが、KPIの設定については行政が苦手としており、そもそも何のための事業なのかという視点が欠落しているために設定ができないものと認識している。</p> <p>すべての取組の大前提は「総合計画」であり、施策ごとのKPI（成果指標）は「総合計画」で設定されている。</p> <p>したがって、これから「計画」を作りこんでいく中で、最終的に目指す姿に向けた行動指標の立て方や見せ方について各課と議論し、評価ができるようなKPIの設定に努めたいと考えている。</p> <p>例えば集落ごとの防災訓練などがあると思うが、そういう場でLINEを活用してもらえるように、集落単位で働きかけるような形にすると展開もし易いのではないかと考えている。</p> <p>既存の枠を使ったKPIの立て方もよいかもしいかな。</p> <p>E委員はいかがか。</p>
<p>E委員</p>	<p>現場における「PDCA」の実践については、あまり計画どおりにがんじがらめにするのではなく、最終的に全体としての「PDCA」を客観的に評価ができる仕組みがあればよいと思う。</p> <p>KPIについては、先ほど来「できないKPIを立てても仕方がない」とのご意見があるが、それがどうしてもやらなければならないことであれば外注するのも手段の1つである。</p> <p>人ができないことをすることで付加価値を求める企業もあるので、そういった企業を汲み上げることも考えていただければと思う。</p> <p>全体的な流れの話のなかでパブリックコメントが議論に挙がったが、パブリックコメントに対する佐渡市のリアクションがないように見える。</p> <p>意見に対する回答はあるが、その意見をどこに採用したのかなど公表していただきたいし、アナログな手法ではあるが市長を困むような集会の場でそのようなことができるとうよいと思った。</p> <p>「意見しても聞いてくれない」という声もある。</p>
<p>椎室長</p>	<p>パブリックコメントへの対応については各課でばらつきがあるかもしれないが、基本的にはご意見を集約しそれに対する対応を回答している。</p>
<p>E委員</p>	<p>回答があって、「コメントにより計画がこのように変わりました」というところが見えない訳である。</p>
<p>椎室長</p>	<p>そういった仕組みの構築についてもお願いしたい。</p> <p>承知した。</p>
<p>座長</p>	<p>ちなみに、「構想」のパブリックコメントの際には、「『デジタル化構想』ではなく『デジタル活用構想』とした方がよいのでは」とのご意見があり、まさに計画の名称が変わったという経緯があった。</p>
<p>F委員</p>	<p>その際には、変更となった説明もさせていただいた。</p> <p>F委員はいかがか。</p>
<p>F委員</p>	<p>「市公式LINE」の周知については、教育委員会を通じて児童・生徒の入学の際に登録をお願いするともっと広まるのではないかなと思う。</p> <p>パブリックコメントについては、本当に意見を求めるのであればもっとお簡素化して発信してみてもよいのではないかと。</p> <p>計画書や議事録などを公開しても見る人は少なく、もっと分かりやすく簡素化した資料を公開すると意見もたくさん集まるのではないかなと思う。</p> <p>また、今回の地震で感じたが、デジタルはよいが、携帯電話の電波が途絶えたことで集落が孤立する場合があります。佐渡市においても同様の可能性が予想される中で、そ</p>

<p>A委員</p> <p>椎室長</p> <p>A委員</p> <p>椎室長</p> <p>A委員</p>	<p>の土台となる部分について考えなければならないことがあると思う。</p> <p>それがこれまでの政策を変えることになるかもしれないが、他の地域であっても起こってしまったことに対して学ぶことが必要であると感じた。</p> <p>質問がある。</p> <p>「市公式LINE」について、能登半島地震で登録者数は増加したのか。</p> <p>12月31日時点と1月1日時点で約1,000名増加した。</p> <p>そうかと思う。</p> <p>県内他市町村にも照会したが、コロナの交付金など増加するタイミングがあって、今回はものすごく増えたようである。</p> <p>スマホを持っている高齢者がLINEを使用する割合が非常に高いというデータもあるので、今回の増加を維持するために、友達登録から本人確認までの面倒な手順等のフォローをしっかりと行うなどしていただきたい。</p> <p>また、KPIの設定について、計画は「AsIs」「ToBe」で示すことが一般的と思うが、新潟県では現状値から目標値を設定し、KPIを管理している。</p> <p>もう1点。</p> <p>新潟県では「DCA」を1年で全部回している。</p> <p>総合計画の改定のタイミングでデジタルの実行計画も大きく変更するが、改定は毎年度行うこととしている。</p> <p>したがって、2～3年間で大きな目標は立てるが、計画を進めているうちに雰囲気というか社会の状況も変化するので、見直しはしっかりとする必要があり、と、「DCA」は職員がやらされているのではなく、自らが意識を持ってもらいたいということで、四半期か半期で「Check」と「Action」を行い、1年間を通じて「DCA」を回し、2～3月で翌年度に改定が必要な部分については改定する。また、新たな目標が必要なものについてもこのタイミングで見直している。</p> <p>ただ膨大なExcelで管理していることが課題と認識されており、マネジメント側のDXがテーマとなっている。</p> <p>「PDCA」については、「行動の見直し」と「計画の見直し」の2通りがあると思う。</p> <p>新潟県や他の市町村のマネジメント方法についても参考にさせていただきたく、引き続きご相談をさせていただきたい。</p> <p>また、行政には異動が付きものなので、デジタル政策室において四半期なり半期なりのヒアリングやディスカッションを実施し、計画と職員の距離を一定に保つ作業は必要と考えている。</p> <p>担当が変わったら「計画を知らなかった」ということにならないよう、常に計画に沿わせる体制作りは全庁的に習慣づける必要があると感じた。</p> <p>膨大なExcel管理のお話については佐渡市も同様である。</p> <p>情報共有させていただきながら、ツールやチェック体制の在り方等についてご教示いただけると幸いです。</p> <p>承知した。</p> <p>もう2点ほど。</p> <p>全体のなかでAIを活用したアクションがあってもよいのではないかと。「計画」においてAIとの共存を謳ってはいかがか。</p> <p>また、災害時の電源スタイルについて、行政として蓄電池をどう持つのかなど様々なスタイルを考えなければならない。</p> <p>防災計画側で謳うことかもしれないが、デジタルですべてをリカバリするのではなく、アナログとの共存について考えなければならないと思う。</p> <p>一生懸命LINEを運用しても、災害時にはパケットが飛ばないというようなことになるので、そういう時にどうするのかということである。</p> <p>災害時に避難所で最も活躍するのは高齢者である。</p>
--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

座長	<p>今回の能登半島地震でも、そういった方々が避難所において「生きるためにどうすべきか」について展開していたと聞いている。</p> <p>日頃のコミュニティの在り方について、デジタルも活用するが、人との繋がりやの在り方については、デジタルを執行するためにも、コミュニティの中で育まれてなければならないし、それこそが本当の意味で市民に安全・安心を与えるものだとは感じた。</p> <p>貴重なご意見に感謝申し上げます。</p> <p>本日の議論をどのように整理していくのかについては、第4回～5回の中で個別の計画の詳細や、計画を執行させていくための仕組みについて整理できたらと思う。</p> <p>それでは、次の議事に移る。</p>
椎室長	<p>2) 令和6年度事業（案）について （アジェンダP.8～11について説明）</p>
中川主幹	<p>「デジタル祭り」については体験に主眼を置いている。</p> <p>普段、デジタル技術に接することがない人をどれだけ呼び込めるのかという課題はあるが、他のイベントと同時開催させることでそういった方もデジタル技術に触れていただければ思うところである。</p>
D委員 椎室長	<p>ターゲットは「2030年に佐渡にいる働く世代」とのことだが、高齢の方はどうか。</p> <p>年齢層で言えばターゲットは40～50歳代ということになるが、高齢の方を制限するものではないので、広く周知した中で皆さんに足を運んでいただければと思う。</p>
D委員	<p>逆に若い世代の子どもたちにもよいと思うので、ターゲットを狭くする必要はないのかなと思う。</p> <p>何か狙いがあるのか。</p>
中川主幹	<p>第1回ということもあり、まずはこの人たちがトリガーとなって佐渡市のデジタル化を推進していけるような形にしたいという思いがある。</p> <p>ゆくゆくは高齢者をターゲットとしたイベントであるとか、民間事業者への展開であるとか、1回で終わりとは考えていないので、その時々で時世に応じたコンセプトを作っていきたい。</p> <p>40～50歳代であるとそのお子さんも一緒に来場できるし、地域でもリーダーシップを発揮している世代であり、民間企業でもそういった立場にいる方が多いと思うので、今後の産業の振興という点でもキーマンの世代になると考えている。</p>
座長	<p>お子さんであれば、「SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト」に対してデジタル政策室が仕掛けることもあると思う。子どもが集まるイベントはたくさんあるので、そこを活用してデジタルを体験してもらうのはよいと思う。</p>
E委員 椎室長	<p>一般のメーカーさん、企業さんが宣伝のための参考出品など、製品化されていないような商品を出してもよいのか。</p> <p>よいと考えている。</p>
座長	<p>サドテレビさんはもちろん、佐渡市と協定を結んでいるNTT東日本さんや、中小企業家同友会、副座長と関りのある企業の方々などに広く声がけさせていただき、このような場を創出できればと考えている。</p> <p>それでは、最後の議事に移る。</p>
椎室長	<p>3) その他 （アジェンダP.12～14について説明）</p>
座長	<p>先ほど副座長からもあったが、この懇談会が役割を果たすためにはどの程度の規模の懇談会にした方がよいのか、どのような人物に入っていた方がよいのかという部</p>

副座長

分にも関わってくるのかと思う。

そのあたりが整理されるとよいのかなと思う。

それでは、最後に副座長より一言お願いする。

委員の皆さま、本日もたいへんお疲れさまであった。

新年早々、色々なトラブルが起こった日本であったが、そんな中において皆さまご多忙の中このような場を設けていただき感謝申し上げます。

本日は「PDCA」の策定についてのご意見や、市民への情報伝達についてもっとよい在り方があるのではとの議論。付随して膨らむ職員の業務のDX化、また、現在の計画へAIとの共存を謳うべきなどといったご意見をいただき、これを、今後市の政策の「PDCA」へ反映していかなければならないと考えているところである。

この懇談会の果たす役割が徐々に広がっていくような形になるとよいと思っていて、それが市民への展開の入口のようになっていくとよいと個人的には考えている。

皆さまには是非とも長い目で見ていただいて、次期の懇談会にもご参画をご検討いただければ幸いである。

よろしくをお願いしたい。

5 閉会